

発信日 平成 22 年(2010 年)4 月 23 日

あて先 中川文部科学副大臣殿 後藤大臣政務官殿

発信者

- ・氏名：大来 雄二（おおきた ゆうじ）
- ・性別：男、年齢：64、住まいの都道府県：東京都
- ・職業（所属、役職）：金沢工業大学、客員教授

■ 科学技術政策に関する意見公募に対する応募意見 ■

項目番号：4

【意見の件名】

工学系専門分野への興味と理解を増進させるために基礎教育部分を抜本強化する政策の重要性

【意見】

知識基盤社会構築の一環として、学部レベルの高等教育の強化が必要である。高校普通課履修水準をベースに、エンジニアリングあるいは技術にかかわる工学系専門分野への興味と理解を増進させるための基礎教育部分（即ち、工学導入教育、Introductory Education（または Learning of Engineering）の、抜本強化につながる政策への重点的取り組みを、緊急かつ重点的に推進すべきである。

【説明】

本意見の提出者らは、(社)日本工学アカデミーにおいて工学の克復研究会(代表者：長井 寿)を組織し、工学の「健康な姿」について検討を進めている者である。研究会における共通認識として、次のような問題意識を持つに至っている。

- *我が国が科学技術創造立国をかたちにしていく上で、その担い手となる人材の育成は、緊急でかつ重点的に取り組むべき課題である。
- *高等教育の工学部に代表される、将来エンジニアリングなり技術なりを生業としていく若者の教育に最も力を発揮することが期待されている部門において、その基礎教育部分の我が国の現状は憂うべき状態にあり、抜本強化策が必要である。

今次意見募集の文中に、次のような表現がある。

「携帯電話やパソコンの普及は、・・・(中略)・・・。これらは全て、科学者たちの努力のたまものであり、科学技術の進歩によるものです。」

この「科学者たち」という用語法に、エンジニアリングあるいは技術にかかわる人たちの科学技

術に対する貢献を相対的に軽視する、現在の科学技術政策の弱点が如実に現れている。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/03/1291303.htm

第3期科学技術基本計画の人材戦略に関わる重要政策には、大学院教育強化(例:ポスト21COEプログラム)や理数好きの子供の育成(例:スーパー・サイエンス・ハイスクール)は挙げられているが、上に述べた問題意識の解決につながる政策は明示されていない。

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/_icsFiles/afieldfile/2008/12/18/s002.pdf

本意見の提出者らは、平成22年度予算事業仕分けに関するパブリック・コメント募集に応じて、意見(以下のURL参照)を提出した。本意見はその意見と関連が深い。

http://www.eaj.or.jp/whatseaj/public_comment_20091201.pdf

我が国における科学技術の水準の向上を図り、もって我が国の経済社会の発展と国民の福祉の向上に寄与するとともに、世界の科学技術の進歩と人類社会の持続的な発展に貢献するためには、智徳を基盤にすえた教育戦略が必要不可欠と考える。そして智と徳の高等教育レベルの基礎力をつけさせる教育環境の整備が、科学技術分野、特に工学系学部において緊急でかつ重要な課題と考える。

以上